つの数量の関係を考察すること。

D　データの活用

ア　データを表やグラフで表したり，読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 次のような知識及び技能を身に付けること。

㋐　データを日時や場所などの観点から分類及び整理し，表や棒グラフで表したり，読んだりすること。

㋑　データを二つの観点から分類及び整理し，折れ線グラフで表したり，読み取ったりすること。

㋒　表や棒グラフ，折れ線グラフの意味やその用い方を理解すること。

(ｲ) 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

㋐　身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し，表や棒グラフを用いながら，読み取ったり，考察したり，結論を表現したりすること。

㋑　目的に応じてデータを集めて分類及び整理し，データの特徴や傾向を見付けて，適切なグラフを用いて表現したり，考察したりすること。

〔数学的活動〕

ア　内容の「Ａ数と計算」，「Ｂ図形」，「Ｃ変化と関係」及び「Ｄデータの活用」に示す学習については，次のような数学的活動に取り組むものとする。

(ｱ) 身の回りの事象を観察したり，具体物を操作したりして，数学の学習に関わる活動

(ｲ) 日常の事象から見いだした数学の問題を，具体物や図，表及び式などを用いて解決し，結果を確かめたり，日常生活に生かしたりする活動

(ｳ) 問題解決した過程や結果を，具体物や図，表，式などを用いて表現し伝え合う活動

3　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育むべき資質・能力の育成に向けて，数学的活動を通して，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，数学的な見方・考え方を働かせながら，日常の事象を数学的に捉え，数学の問題を見いだし，問題を自立的，協働的に解決し，学習の過程を振り返り，概念を形成するなどの学習の充実を図ること。

イ　数量や図形についての基礎的な能力の維持や向上を図るため，適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。また，段階間の指導内容を円滑に接続させるため，適切な反復による学習指導を進めるようにすること。

ウ　２の内容の「Ａ数と計算」，「Ｂ図形」，「Ｃ測定」，「Ｃ変化と関係」及び「Ｄデータの活用」の指導の間の関連を図ること。

(2) ２の内容については，次の事項に配慮するものとする。

ア　思考力，判断力，表現力等を育成するため，各段階の内容の指導に当たっては，具体物，言葉，数，式，図，表，グラフなどを用いて考えたり，説明したり，互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。

イ　「Ａ数と計算」の指導に当たっては，具体物などの教具を適宜用いて，数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。

ウ　１段階の内容に示す事項については，次の(ｱ)から(ｳ)までに留意するものとする。

(ｱ) 内容の「Ａ数と計算」のイについては，必要な場合には，(　)や□などを用いることができるものとする。

(ｲ) 内容の「Ｃ測定」のア及び「Ｄデータの活用」のアについては，必要な場合には，温度計や体温計の目盛りの読み方やデータのまとめ方を取り扱うものとする。

(ｳ) 内容の「Ｃ測定」のアの(ｱ)の㋒については，任意の単位を用いた比較や基準容器で正確に計量する技能を指導することに配慮するものとする。

エ　２段階の内容に示す事項については，次の(ｱ)から(ｳ)までに留意するものとする。

(ｱ) 内容の「Ａ数と計算」のイ及びウについては，簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また，計算の結果の見積も